

第 3 回めいほう協議会記録

日時: 令和 6 年 3 月 22 日 (金) 13:30~15:05

場所: 大教室

出席者: めいほう協議会委員 2 名、校長、副校長、教頭、各グループリーダー

○会長挨拶

本日は学校の取り組みをお話いただき、地域の人々からアドバイスを頂く貴重な機会である。委員の様々な意見をいただき、反映させていきたい。

○校長挨拶:

- ・卒業生は 145 名だった。本校を卒業しなかった生徒については、進路変更により、新たに人生を切り開いている。
- ・多くの生徒が 3 年間で卒業していくことを目指している。入学生は午前部 115 名・午後部は 45 名であるが、今後もきめ細やかな指導をしていきたい。

○令和 6 年度学校評価報告書実施結果に基づいて各グループより説明

1. 地域等との協働について:

- ・4年ぶりに地域清掃を実施することができた。また、協議会でご紹介頂いた駅前清掃に参加し、地域の方との交流を図ることができた。
- ・家庭科の授業では、地域の方々に来て頂き異世代の人とコミュニケーションを図る良い機会となった。
- ・HP の充実について、今年度は部活動に関する記事を充実できた。今後は授業や学校生活について充実させていきたい。それが、地域からの理解にもつながる。

2. 活動支援について:

- ・球技大会は、例年は 1 種目だが、生徒の意見を入れて 2 種目実施することができた。
- ・部活動について、目標は参加率 30%だったが、加入率 27%にとどまった。加入している生徒への支援を充実させ、部活動を活発にしていきたい。
- ・またボランティアにも力を入れた。凧揚げ大会、小学校への出張授業など地域で活動し、地域の方々の理解を得ることができた。

3. 生徒支援について

- ・自分の身は自分で守ることを目指して、警察署の方の講演等を実施している。
- ・心の支援のためサポートブックを実施し、専門職の SC・SSW に繋いでいる。生徒の状況の把握につながっており、今後も取り組んでいきたい。

- ・生徒の欠席数が昨年度よりやや減少した。生徒が安心して学校に行けるよう引き続き支援していきたい。

4. 学校管理・運営について

- ・来年度はグラウンド改修が行われる。生徒の活動場所が体育館と校舎内になることが予想される。
- ・防災については、実際に起きた際に備える教員向け研修を行った。来年度は生徒の喫食訓練なども視野に入れている。防災については地域の方々にも参加していただくような訓練や、生徒に向けた訓練なども行っていきたい。

5. 教育課程・学習指導について:

- ・ICT が導入され 3 年目となるが、積極的に活用していく必要がある。
- ・ICT 活用の充実に加えて、他者との協働によって生徒の力を伸ばしていくような指導を進めていきたい。
- ・生徒は一人での作業はできるが、協同での作業にも取り組めるようにしたい。

6. 進路指導・支援について:

- ・社会生活実践力の育成をめざし、基礎力診断テストや外部の講師の講演、探究活動などのプログラムを組んでいる。1 つ 1 つのプログラムは充実しているが進路実現に結びつくよう、生徒自身がどう深めていけるかが課題である。
- ・生徒の中には、進路を考える際、どうしていいかわからないという生徒がおり、そのような生徒は準備が遅れる。今年度は進路未定が増えているが、一人一人の進路実現を図れるよう来年度以降頑張っていきたい。

○委員からの意見

- ・部活動は成績を残しており、頑張っている様子が分かる。ボランティアについては、生徒会フロンティアという形で組織があることから、地域としてもイベントの際に協力を依頼しやすい。
- ・地域の人に参加してもらうことで、地域との関係は強まっていく。行事の情報を自治会に流せるとよいのではないかと。無理をする必要は全然ないが、生徒が地域と接触できる機会がもっとあるといいのではないかと。
- ・防災について地域の方の参加は賛成である。自治会等に声をかけて実現を図っていけばよいのではないかと。
- ・地域の防災委員は意欲が高く、声をかければ生徒への指導や防災グッズの紹介などを依頼できる。地域では若い力が足りなくなっているため、地域としても力を借りたい。
- ・また心の問題への対応としてアンケートがあるのは良い。いじめなどの問題はどうなっているか？
→グループリーダーより回答。小中学校のいじめとは違い、本校生徒はコミュニケーションが苦手な生徒が多い。コミュニケーションなどがうまく行かずトラブルになることが多い。
- ・進路については、自分の得意な分野を周りから認めてもらい、自分でも見つけて、進路の実現につなげていけたらいいのではないかと。

○校長より

コロナによって地域との断絶をせざるを得なかったことが、地域とのつながりをうすくしてしまったが、地域とのつながりも徐々に戻ってくる時期である。今後も学校と地域が連携するよう、運営していく。様々な意見を総括し、総合評価としてまとめて次年度につなげていきたい。